



UTO から世界へ！ 第37号

グローバル化の時代を生きる

令和7年（2025年）3月6日付け日本経済新聞に、外務省外務審議官の赤堀毅さんが国連事務次長・軍縮担当上級代表を務める中満泉さんについて書かれていました。赤堀さんと中満さんは大学時代からのお知り合いとのことで、現在、国連機関にいる日本人の中で最も高位にいらっしゃる中満さんのことを、赤堀さんはこう語っています。「国際機関での競争を勝ち抜いてきた中満さんだが、困っている人のため、人類全体の課題解決のために何ができるかを本気で考えている、ソフトな調整力にたけた日本的なところもある。」

国連事務次長であり、二人の女の子の母親でもある中満さんの生き方に、私はいつも憧れを抱いていました。分断と対立が加速する今、中満さんの持つ、対話による調整力の必要性をひしひしと感じています。中満さんの著書に、グローバル化の時代を生きるのために必要なことが書かれていますので、長くなりますが、生徒の皆さんに紹介します。

私が「勇気」について初めて学んだのは、小学3年生の時でした。私は、父の転勤にともない東京から福岡県・博多の小学校に転校したばかりでした。ある日、クラスの男の子がお腹をこわしてしまいました。教室で大便をもらしてしまったのです。どうすればよいかわからなくて泣きながら立ちすくむその子を、「うわー、くっせえ」「バイキン!」とクラスメートが輪をつくってはやしたて、物を投げつけるなか、少し巻き目のショートカットの女の子が「大丈夫だよ、心配なくていいよ、さ、行こうね」と一人声をかけ、そっと教室から連れ出しました。はやしたてる輪には加わりませんでした。その場に凍りついて何も言えなかった私は、普段はとてもおとなしい女の子から本当の勇気がどういうものかを教わりました。

あなたがこの女の子になってくれれば、日本の学校でいじめの問題は解決していくでしょう。同じように、みなで当たり前のことが当たり前になる社会をつくるために声を上げていけば、日本をもっと住みやすい、よりよい社会にしていくことができると思うのです。たとえば、まじめに働く人々がふつうの暮らしをしていけるような社会。進学したい子どもたちが、家庭の経済事情にかかわらず進学できるような社会、高校を卒業すれば、英語で日常会話ができるようになるような社会。男性でも女性でも、希望する人は仕事も家庭も両立できるような社会。もちろん女性でも能力のある人はリーダーになれるような社会。そして私が思い描く将来の日本は、平和を守りつなげていくと同時に、平和をつくり出す努力に参加する国。紛争や迫害を逃れる難民たちをもっと受け入れる、オープンな社会です。

日本社会は変革するのが難しいという人がいますが、歴史のなかで見れば必ずしもそうではありません。私たちの祖先はいつも外国からいろいろなものを取り入れて、それを独自のものに発展させて新しい社会制度や文化をつくってきました。グローバル化の時代にも、そうあればいいと思うのです。**未来のあなたが住む地域、日本、そして世界は、あなたとあなたの仲間たちが創り出すものです。**

中満泉(2017)『危機の現場に立つ』講談社

テレビで流れるニュースに顔を背けなくなる日々が続いていますが、世界はきっと変えられると私は思っています。まずは、同じクラスの、隣で苦しんでいる人に何ができるか本気で考えてみましょう。そして、宇土中高生が、中満さんのように人類全体の課題解決を本気で考えるような人になってほしいなと思っています。

中満さんの著書『未来をつくるあなたへ』は、ジャパンナレッジスクール、岩波ジュニアスタートブックスの中にあります。ぜひ、読んでみてください。

ちなみに、中満さんは熊本にルーツがあります。

